

## 機能水シンポジウム 2020 開催のご案内

テーマ： 機能水が拓く“with corona”の日常と明日

大会長： 堀田国元（一般財団法人機能水研究振興財団）

東京オリンピックで沸き立つはずであった 2020 年は、中国に端を発した新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) のパンデミックな感染拡大により暗転し、オリンピックはもとより多くの行事が延期または中止に追い込まれ、日本機能水学会も 9 月に予定していた第 19 回学術大会（大会長：今田千秋東京海洋大学教授）を来年に延期することを余儀なくされました。

そうした中、政府では新型コロナウイルス感染症対策の一環として、アルコールと次亜塩素酸ナトリウムを新型コロナウイルス (SARSCoV-2) の消毒に使用することを推進してきましたが、それらの供給が逼迫するに伴って世の中ではさまざまな代替品が爆発的に使われ始めました。次亜塩素酸水（酸性電解水）もその一つでしたが、その他にも次亜塩素酸ナトリウムに酸を混和して酸性化した疑似的な“次亜塩素酸水”も出回りました。

こうした事態に対して経産省傘下の独立行政法人製品評価技術基盤機構（NITE）の主導において新型コロナウイルスに対する界面活性剤と次亜塩素酸水（酸性電解水）の不活化効果評価試験を 4 月から始めましたが、5 月末に行われた中間発表がマスコミ報道によって歪められ「次亜塩素酸水は効かない」という印象（誤解）を世の中に広めてしまいました。その後、曲折を経て最終的な評価試験が行われた結果、疑似的なものも含めて次亜塩素酸水の有効性が確認され、6 月下旬に公表されました。さらに、次亜塩素酸水の安全性や使用に関しても誤解や混乱が認められます。

これらを受けて、当学会では、（一財）機能水研究振興財団や（公財）ルイ・パストゥール医学研究センターその他の諸団体のご協力を得て、新型コロナウイルスを中心に次亜塩素酸水（酸性電解水）の有効性や安全性などに関して議論を行って誤解や混乱を整理し、正しい知識を改めて確認するとともに、国や世の中に次亜塩素酸水（酸性電解水）に関する提言をまとめることを目的として機能水シンポジウム 2020 の開催を企画いたしました。

3密回避などの感染対策のため定員を限らせていただきますが、多くの方々のご参加をお待ちいたします。